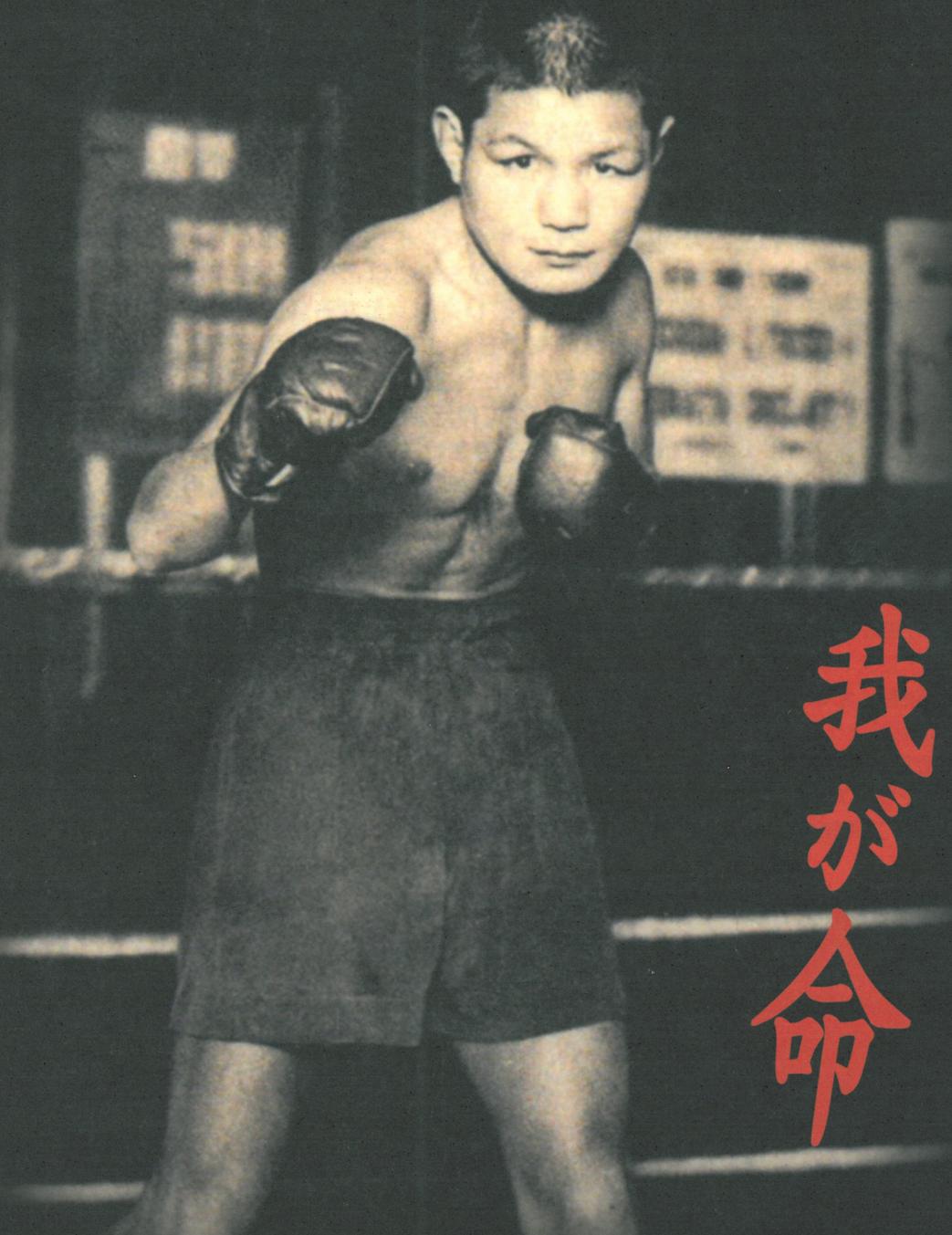


昭和の時代を駆け抜けたスーパースター

# 拳聖ピストン堀口・生誕100年祭

昭和初期から戦後にかけて前人未到の「四七連勝・八二KO」を記録したボクサー。ブレイキのさかない機関車のように休まぬ連打は「ピストン戦法」と呼ばれ、堀口の猛ラッシュが始まると「わっしょい！ わっしょい！」の声が日本中にこだました。



拳闘こそ

我が命

◎日時／2014年6月1日(日)決行

◎会場／茅ヶ崎市総合体育館

同時  
開催

## 青少年育成湘南ボクシング

●主催／“拳聖ピストン堀口・生誕100年祭”実行委員会 ●後援／茅ヶ崎市



# 昭和の時代を熱く燃やした“ピストン堀口”の功績



本名：堀口恒男。大正3年(1914)10月7日栃木県真岡市生れ、昭和25年(1950)10月24日没。  
元日本フェザー級、東洋フェザー級、日本ミドル級チャンピオン。戦歴は176戦138勝(82KO)24敗12引分け。  
柔道少年だった堀口は、巡業で来ていた「拳闘」とよばれるスポーツに魅了された。昭和7年、早稲田大学に入学し「日本拳闘の父」と称される渡辺勇次郎の日本拳闘倶楽部へ入門。昭和8年、プロデビュー。無類のタフネスと攻撃力を武器に勝ち進み、デビューから引分けを挟んで47連勝という驚異的な記録を達成した。



早稲田大学戸塚球場で開催された「日仏対抗戦」では、弱冠18才の堀口と元世界王者ブラドネルとの闘いに約3万人の大観衆が熱狂。8Rの判定結果は引分けだったが、戸塚球場に「都の西北」の大合唱がこだました。昭和16年に両国国技館で行われた笹崎儀戦は日本ボクシング史上「世紀の一戦」とも言われ、この試合に勝利して以降、「剣聖」宮本武蔵になぞらえて「拳聖」と呼ばれた。

相手をロープに追い詰めての休まぬ左右の連打は、ブレーキのない機関車のごとくで「ピストン戦法」と呼ばれた。堀口の連打が始まると「わっしょい！ わっしょい！」の大合唱がおきるほどの人気で、日本中を大いに沸かせた。



B・D・グスマンを破り東洋フェザー級チャンピオンにまで上りつめるなど、世界クラスの実力をもっていたが、太平洋戦争により、世界王座を獲得する機会には恵まれなかった。戦争が終結し、中断していた拳闘も再び興行を許され堀口はリングに復活。しかし、昭和25年10月24日深夜、急行列車にはねられて他界。その拳は、闘いを続けているように固く握られたままだった。弱冠36才。拳闘に生き、そして拳闘に死した生涯だった。後年、梶原一騎によって描かれた『あしたのジョー』のモデルは、ピストン堀口であったとされている。

- 伝記／『ピストン堀口の風景』山本茂著(ベースボール・マガジン社)、  
『ラッシュの王者—拳聖・ピストン堀口伝』山崎光夫著(文藝春秋)
- 漫画／『ピストン堀口物語』(全3巻) 梶原一騎・影丸譲也著(JICC 出版局)
- 映画／昭和10年・日活『リングの王者』(主演・主題歌歌唱／ピストン堀口)、  
昭和32年・大映『妻こそ我が命』(主演／菅原謙二・若尾文子)
- テレビ／ETV 特集・シリーズ父の日記を読む『俺は拳闘家だ！～ピストン堀口の「拳闘日記」～』(平成6年・NHK 教育テレビ、平成19年・NHK アーカイブス再放送)、知ってるつもり！？『ピストン堀口』(平成7年・日本テレビ) 他



## 《ご挨拶》

昭和初期、日本ボクシング黎明期のヒーローで「拳聖」と謳われた“ピストン堀口”。  
「ピストン」はボクシングの代名詞であり、「堀口」の名はボクシング界をこえた社会的存在でもありました。  
堀口恒男こと“ピストン堀口”が生れたのは1914年。ことしが、記念すべき生誕100年となります。  
昭和という時代のヒーローを讃えるとともに、その偉大な功績を偲び“生誕100年祭”を実行いたします。  
皆さまのご来場を、そして熱きご賛同とご支援をいただきたく、心よりお願い申し上げます。

“拳聖ピストン堀口・生誕100年祭” 実行委員会委員長 **藤木幸夫**

## 《“拳聖ピストン堀口・生誕100年祭”実行委員会発起人》

- 服部信明(茅ヶ崎市長) 広瀬忠夫(茅ヶ崎市長会議長) 河野太郎(衆議院議員) 佐藤光(神奈川県議員)  
田中賢三(茅ヶ崎商工会議所名誉会頭) 山口利通(茅ヶ崎商工会議所会頭) 大村日出雄(茅ヶ崎市観光協会会長)  
伊藤留治(茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団理事長) 稲岡輝雄(茅ヶ崎市体育協会会長) 豊岡勝哉(茅ヶ崎青年会議所理事長)  
林有厚(日本ボクシングコミッションコミッショナー) 大橋秀行(日本プロボクシング協会会長)  
藁谷友紀(早稲田大学理事・教育学部教授・ボクシング部部长) 渋谷慎一郎(茅ヶ崎稲門会会長) 藤木幸夫(ピストン堀口道場後援会長)

## “拳聖ピストン堀口・生誕100年祭” 実行委員会